様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 １１ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２１５７

研究課題名（和文）「世界への愛」をめぐる存在論的探究

研究課題名（英文）Ontological Approach to the Love of the World

研究代表者
森　一郎（Mori, Ichiro）

東北大学・情報科学研究科・教授

研究者番号：００２３００６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクト「「世界への愛」をめぐる存在論的探究」では、ハイデガーとアーレントの哲学的パースペクティヴに基づき、「人びとととともに－物たちのもとで－私は世界に住まう」という根源的事実を存在論的に解明し、われわれの世界を愛することを学ぶレッスンを積むことを試みてきた。公刊した主な研究成果は、次の通り。森一郎の単著４冊：『世代問題の再燃　ハイデガー、アーレントとともに哲学する』、『現代の危機と哲学』、『ハイデガーと哲学の可能性　世界・時間・政治』、『核時代のテクノロジー論　ハイデガー『技術とは何だろうか』を読み直す』。森一郎の単独編訳書１冊：ハイデガー『技術とは何だろうか　三つの講演』。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ハイデガーとアーレントとともにみずから哲学する森一郎の「世界への愛」研究プロジェクトは、この三年間、強力に推進され、二冊の書き下ろし単著『現代の危機と哲学』（2018）と『核時代のテクノロジー論』（2020）の公刊によって多大な成果を達成した。『現代の危機と哲学』は、2022年度まで継続中の放送大学講義の印刷教材であり、多くの市民に繙かれている。『核時代のテクノロジー論』は、森の単独編訳書であるハイデガー『技術とは何だろうか』の新訳文庫とともに、一般読者に歓迎されている。

研究成果の概要（英文）：In this research project "Ontological Approach to the Love of the World" Prof. Ichiro Mori has studied the primordial fact of living-in-the-world-with-people-alongside-things from the perspectives of M. Heidegger and H. Arendt and thus gained the everyday lessons how to love our world. He has published four books for these three years: Rekindling Problems of Generation (2017), The Crises of the Modern World and the Possibility of Philosophy (2018), Heidegger and the Possibility of Philosophy (2018), Philosophy of Technology in the Nuclear Age (2020). He has edited and published Japanese translation of Heidegger's Three Lectures on Technology (2019).

研究分野：哲学

キーワード：世界への愛　ハイデガー　アーレント　存在論　技術論　世代問題

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

(1) 研究代表者の森一郎は、東京女子大学に 21 年間勤務したのち、東北大学大学院・情報科学研究科・人間情報哲学分野の教授を務め、2017 年 4 月より、本科研費研究課題「「世界への愛」をめぐる存在論的探究」に取り組み始めた。

(2)「世界への愛」という研究テーマ自体は、森が 2014 年 4 月、東北大学に赴任すると同時に開始し、三年間にわたって実施した科研費研究「「世界への愛」をめぐる現象学的探究」によって、推進してきた。本研究は、そのプロジェクトを続行し拡充するものである。

２．研究の目的

(1)「世界への愛」というテーマに森が逢着したのは、一つには、ハンナ・アーレントの思考におけるこのキーワードを、マルティン・ハイデガーの「世界内存在の現象学」との密接な関連において独自に解き明かしたい、という意図を抱いてのことであった。

(2) もう一つには、2009 年に東京女子大学の伝統校舎解体という事件に立ち会った経験を経て、2011 年 3 月 11 日に勃発した東日本大震災に見舞われた東北の地で、「世界への愛」をあらためて学び、育むことが重要だと思われたということがあった。

(3) 全体として、本研究は、森が 30 年以上にわたって追求してきた、現代日本における哲学の可能性を、「世界への愛」をめぐる探究に一貫して携わることで現実化し、広く世に問うことを主眼とするものである。

３．研究の方法

(1)「世界への愛」という言葉がアーレントの思想圏に属する以上、本研究課題を遂行するには、彼女の基本的な思考態度を自家薬籠中のものとすることが肝要である。主著『人間の条件』（もしくは『活動的生』）で提起されている公／私の区別、労働／制作／行為という「活動的生」の三区分、さらには近代批判としての「世界疎外」論に熟達することが、重要となる。

(2) また、アーレントの思考の背景をなすハイデガーの思索を深く理解することが欠かせない。とくに、『存在と時間』で模範的に示された現象学的存在論の方法理念を駆使することが求められる。ハイデガーの「死」と「終わり」の思索と、アーレントの「誕生」と「始まり」の思考とを重ね合わせることで、「時間と存在」に関する重層的な理解を得ることができる。

(3) さらに、「技術」をめぐるハイデガーの思索を、アーレントの「危機」の思考と結びつけて再解釈することで、「核時代のテクノロジー論」を構築する基盤が得られる。そのさい、古代ギリシアにおける「テクネー（技術）」や「ポイエーシス（制作）」の根本経験へ遡る「現象学的解体」（ハイデガー）もしくは「真珠採り」（アーレント）の解釈学が、導きとなる。

(4) 森自身は、独自の方法態度として、「原理・始まり（arche）」の原義にかなった意味での「原初論（archaeology）」を提唱しようとしている。これは、アーレントの「出生性」概念に触発された、「新しい始まり」の論理の創出の試みである。その原初論を、優れた意味における「終末論（eschatology）」と織り合わせる思考は、「世代」という実存現象を浮かび上がらせ、ひいては、存在論の根本問題としての「共‐存在時性」の絡み合いを解明することに役立つ。

４．研究成果

(1) 2014 年度に仙台での活動を開始した森は、東北大学情報科学研究科を拠点とする哲学研究の交流ネットワークを構築してきた。2015 年に設立された東北アーレント研究会（愛称「ハンナ・アーベント」）は、開催 10 回を数え、問題意識あふれる発表と密度の濃い議論を毎回行なっている。関連企画として、東アジアにおける研究ネットワークの構築のために、中国・南京大学の李晟台氏を招いて、「東アジアを生きる／東北を生きる」と題するシンポジウムを、2019 年 6 月に東北大学情報科学研究科で開催した。

(2) 2017 年度の成果としては、第一に、単著『世代問題の再燃　ハイデガー、アーレントとともに哲学する』（明石書店、2017 年 10 月）の刊行がある。本書は『死を超えるもの　3・11 以後の哲学の可能性』（東京大学出版会、2013 年）の姉妹編であり、世界への愛をめぐる試論集である。世代という今日的問題を哲学的に問い直そうとする本書に対する反響は大きく、朝日新聞などで書評に取り上げられ、出版二ヶ月後には増刷となった。

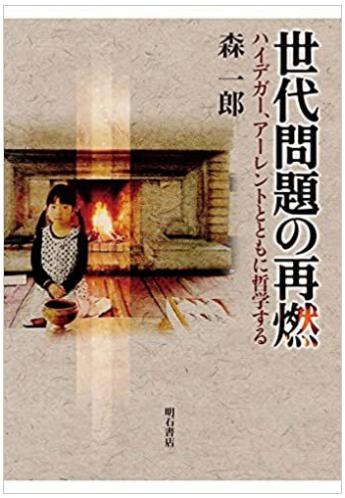
(3) 第二に、2018 年 3 月、書き下ろし単著『現代の危機と哲学』（放送大学教育振興会）を公刊した。放送大学ラジオ授業の印刷教材であり、現代における哲学的思考の重要性を分かりやすく市民に伝える内容でありつつ、ニーチェ、ハイデガー、アーレントについて独創的解釈を展開した。年来の「世界への愛」著作構想の第一部という面をもち、「始まりの時間性」や「世界の存

続」の謎に挑んでいる。放送大学の授業は 2022 年度まで継続される。

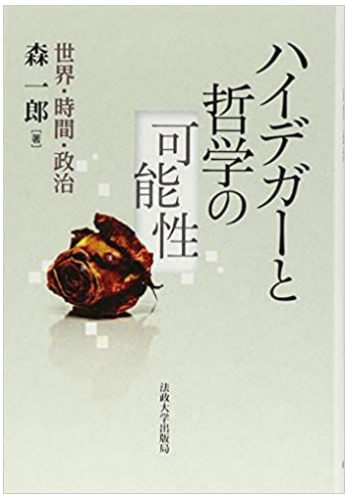
(4) 2018 年度の仕事として重要なのは、2018 年 8 月、単著『ハイデガーと哲学の可能性　世界・時間・政治』を、法政大学出版局から出版したことである。この論文集は、森が 30 年間にわたって継続してきたハイデガー研究を、「自己と世界」、「時間とその有意義性」、「哲学と政治」、「哲学の可能性」の四部構成で一書にまとめたものであり、2008 年刊の『死と誕生　ハイデガー・九鬼周造・アーレント』（東京大学出版会）に続く、学術的研究成果である。

(5) もう一つ、2018 年度の成果として重要なのは、ハイデガーの技術論テクストを独自に編集して翻訳し、マルティン・ハイデガー著『技術とは何だろうか　三つの講演』と題して講談社から 2019 年 3 月に出版したことである。森は 2003 年、ハイデッガー全集第 79 巻『ブレーメン講演とフライブルク講演』（創文社）の翻訳を手がけているが、その訳業と並ぶハイデガー技術論の画期的新訳の文庫として話題となり、すでに三刷を数えている。

(6) 本研究最終年度の 2019 年度には、書き下ろし単著『核時代のテクノロジー論　ハイデガー『技術とは何だろうか』を読み直す』を、2020 年 3 月、現代書館から出版した。編訳書『技術とは何だろうか』に収録したハイデガーの講演「物」、「建てること、住むこと、考えること」、「技術とは何だろうか」を、統一的視点から解釈した。年来のハイデガー技術論研究の総決算であるとともに、『現代の危機と哲学』に続く「世界への愛」の結晶である。



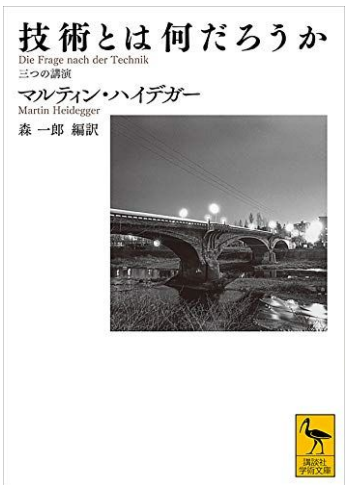
『世代問題の再燃　ハイデガー、アーレントとともに哲学する』明石書店、2017 年 10 月刊



『ハイデガーと哲学の可能性　世界・時間・政治』法政大学出版局、2018 年 8 月刊

『核時代のテクノロジー論　ハイデガー『技術とは何だろうか』を読み直す』現代書館、2020 年 3 月刊

『現代の危機と哲学』放送大学教育振興会、2018 年 3 月刊



『技術とは何だろうか　三つの講演』講談社学術文庫、2019 年 3 月刊

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 森一郎	４．巻 1141
２．論文標題 誕生、行為、創設――アーレント『革命論』における「始まり」について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 思想	６．最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森一郎	４．巻 2
２．論文標題 核時代のテクノロジー論――ハイデガーの技術論講演を読む	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ひらく	６．最初と最後の頁 136-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森一郎	４．巻 87
２．論文標題 〈応答して語る存在者〉のゆくえ――アーレントからハイデガーへ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	６．最初と最後の頁 238-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 森一郎	４．巻 13
２．論文標題 たてること、つくること、あらためること――建物解体問題と憲法改正問題	５．発行年 2018年
３．雑誌名 情報文化論	６．最初と最後の頁 12-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森一郎	4．巻 第32巻
2．論文標題 ハイデガーからアーレントへ――世界と真理をめぐって	5．発行年 2017年
3．雑誌名 実存思想論集	6．最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森一郎	4．巻 Vol. 1
2．論文標題 『存在と時間』はどう書き継がれるべきか	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Zuspiel	6．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://docs.wixstatic.com/ugd/4063c8_fea50f7ebb694202a992d4cb8fb217d6.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森一郎	4．巻 第59巻第4号
2．論文標題 二つのアメリカ――「幸福の追求」の二義性から見えてくるもの	5．発行年 2017年
3．雑誌名 みすず	6．最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森一郎	4．巻 第46巻第3号
2．論文標題 労働という基礎経験――ハイデガーと三木清	5．発行年 2018年
3．雑誌名 現代思想2月臨時増刊号	6．最初と最後の頁 295-314
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森一郎	4．巻 1
2．論文標題 近代平等主義の起源へ――ワークショップ「ホッブズ母権論の射程」を振り返って	5．発行年 2019年
3．雑誌名 哲学分野における男女共同参画と若手研究者育成に関する理論・実践的研究（科研費研究成果報告書）	6．最初と最後の頁 81-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　6件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 森一郎
2．発表標題 〈応答して語る存在者〉のゆくえ――アーレントからハイデガーへ
3．学会等名 明治大学人文科学研究所公開文化講座（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 森一郎
2．発表標題 世界時間、等根源性をめぐって
3．学会等名 ハイデガー研究会特別企画・峰尾公也著『ハイデガーと時間性の哲学――根源・派生・媒介』合評会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 森一郎
2．発表標題 たてること、つくること、あらためること――建物解体問題と憲法改正問題
3．学会等名 情報文化研究会（招待講演）
4．発表年 2018年

１．発表者名 森一郎
２．発表標題 核時代のテクノロジー論――ハイデガー（１）　物と世界
３．学会等名 西田幾多郎哲学講座（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 森一郎
２．発表標題 核時代のテクノロジー論――ハイデガー（２）　危機と転回
３．学会等名 西田幾多郎哲学講座（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 森一郎
２．発表標題 『存在と時間』はどう書き継がれるべきか
３．学会等名 『存在と時間』刊行90周年記念シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計8件

１．著者名 森一郎	４．発行年 2020年
２．出版社 現代書館	５．総ページ数 245
３．書名 核時代のテクノロジー論　ハイデガー『技術とは何だろうか』を読み直す	

１．著者名 森 一郎	４．発行年 2018年
２．出版社 法政大学出版局	５．総ページ数 458
３．書名 ハイデガーと哲学の可能性　世界・時間・政治	

１．著者名 マルティン・ハイデガー、森 一郎	４．発行年 2019年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 176
３．書名 技術とは何だろうか　三つの講演	

１．著者名 森一郎	４．発行年 2017年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 1-342
３．書名 世代問題の再燃　ハイデガー、アーレントとともに哲学する	

１．著者名 森一郎、加藤尚武、他19名	４．発行年 2017年
２．出版社 未來社	５．総ページ数 552(474-492)
３．書名 ホモ・コントリビューエンス　滝久雄・貢献する気持ちの研究	

１．著者名 森一郎、合田正人、他17名	４．発行年 2018年
２．出版社 明治大学〈異境の現象学的展開〉プロジェクト（非売品）	５．総ページ数 442(123-144)
３．書名 異境の現象学　〈現象学の異境的展開〉の軌跡2015-2017	

１．著者名 森一郎	４．発行年 2018年
２．出版社 放送大学教育振興会	５．総ページ数 1-274
３．書名 現代の危機と哲学	

１．著者名 森一郎、木村敏、野家啓一、他7名	４．発行年 2019年
２．出版社 河合文化教育研究所	５．総ページ数 284(104-122)
３．書名 人称をめぐって――臨床哲学の諸相	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考